

《小学生の部》  
佳作（警察庁交通局長賞）

群馬県渋川市立橋北小学校  
2年 森川 莉望

こうつうルールをまもろう

わたしは、まいあさ学校へ行く時に、とう校はんでとう校しています。ほいくえんにかよっている時に、おうだんはどうをわたる時は、車がきていくなくてもすぐにわたらず右、左、右をかくにんすること、手をまっすぐにあげてわたることを教えてもらったので、今でもそのこうつうルールをきちんとまもるようにしています。

わたしのすんでいるちいきでは、近じょのおばさんがボランティアでまいあさはたふりをしてくれています。わたしのおかあさんとおばあちゃんも「ありがたいよね」とよく話をしています。

ある日、わたしがあさとう校していた日のことです。いつもボランティアではたふりをしてくれているおばさんがどうろのはじっこでたおれています。わたしは、いつもおばあちゃんと手をつないでとう校はんのしゅうごうばしょまであるいていくのですが、たおれているおばさんを見たわたしのおばあちゃんは、すぐにそのおばさんの近くに行つて、「だいじょうぶですか」と声をかけていました。おばさんは青しんごうでおうだんはどうをわたるほかのともだちを見まもっていた時に、しんごうむしをした車にひかれてしまったそうです。いしきは、あったけど足をけがしてうごけなくてきゅうきゅう車ではこばれていきました。いつも見ているおばさんがたおれていますがたを見てわたしは、とてもこわくてかなしくなりました。そのつぎの日からおばさんは、はたふりができなくなってしまいましたが、「やっぱり見まもっていないとなにがあるかわからないからこんどからばばがはたふりをするね」といってわたしのおばあちゃんがはたふりをしてくれるようになりました。わたしは、それを聞いてとてもあんしんしました。

じ分がこうつうルールをまもっていても、車にのっている人がまもってくれないとじこがおきてしまうことがわかりました。でも時にはじ分がきちんとルールをまもっていないからじこにまきこまれてしまうこともあります。おとなも子どももみんながこうつうルールをまもってじこが一つでもすくなくなればいいなとおもいました。そしてまわりで見まもってくれているおとなの人とかんしゃしなければいけないなと思いました。